

地域おこし協力隊通信 (No. 58) 中種子町のファンづくり

最近の活動のうち、移住相談について書きたいと思います。
コロナ禍となって以降、地方移住の機運が更に高まっているように感じます。
先日は、愛知県から、家族で移住を検討されている女性が来町しました。
移住の時期は決まっていますが、主に住まい探しを目的とされており、私も物件の内覧に同行させていただきました。
話してみると、様々な心配事を抱えていることが分かります。
先行きが見えない時代です。住まいのこと。仕事のこと。子育てのこと。加えて移住となると、心配事はキリがありません。
それでも、わざわざ中種子町へ一家で移住したいと、思ってくださいる方が居るとするのは、並々ならぬ嬉しさがありません。
私自身も移住者ですから、この町の良さに気が付いてくれる方に会うと、移住当初のワクワクした新鮮な気持ちがいっぱい起こされます。
私が中種子町へ来てすぐの頃、地元のおじいさんと話した時に「なんでわざわざこんなところに移住なんか？」と照れ臭く笑って、その場で獲れた安納芋や、ピーマンなどの野菜を沢山持たせてくれました。



写真：内覧物件の屋上で見晴らしを確かめる移住希望者

不器用な愛情表現が、まっすぐに私の胸を打ったことを覚えています。
そのおじいさんが、私にしてくれたように、私もこの移住希望の方に対して、「中種子町を好きになってもらえるような何かをしたい」と思います。
結果として移住が叶わなかったとしても、もう一度足を運びたくなるような、そういう細く長い「ファンづくり」が、今の地域には求められているような気がします。
「移住者を増やすこと」は目的ではありません。中種子町を好きになつて、いつまでもこの町を残したい、と思ってくれる人が増える。それが、この町が未来に続いていくために、必要なことだと感じています。
—湯目知史(ゆのめともふみ)—
中種子町地域おこし協力隊員。
宮城県出身。種子島の美しい瞬間を文字にして伝えるライター。

各課からのお知らせ

統計調査員

登録者を募集します



すき間時間に統計調査員として活動しませんか？

詳しい内容については、下記までお問い合わせください。

◎お問い合わせ先 企画課企画調整係 ☎ ⑦ 1111 内線 303